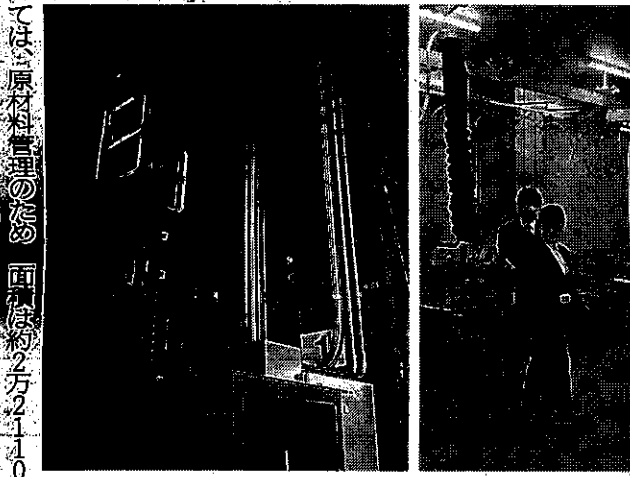


備えが急務

国内最大級のセントラルキッチンが竣工
災害対応と効率化で365日安定供給

日清医療食品

病院・介護福祉施設向け給食サービスの最大手、日清医療食品(株)は国内最大級のセントラルキッチン(CK)の新工場「ヘルスクアードファクトリー 関東(栃木県栃木市)」を竣工させた。8月10日に記者発表会を開いた。新工場は、病院や介護施設の厨房で行っていた職立作業、洗浄・検収、下処理、調理などの業務を一手に引き受け、原材料管理や調理工程、搬送工程などを自動化し生産の効率化を図る。食の品質管理や建物の災害対策などの設備も最新の機能を備え、東日本エリアをカバーする新たな生産拠点を一般食・治療食を1日10万食製造・配送する。記者発表会で立林社長は「1年365日、1日も欠かさずサービスを提供する義務や責任を負う当社と業界にとって、有意義」と話し、「最大の消費地である関東圏や首都圏への供給基地となり、当社の重要拠点として今後のビジネスの展開に大きく寄与する」と期待を寄せた。操業開始は11月を予定。



大型冷蔵自動倉庫と搬送補助装置

実際に必ずバックアップできないと想定している。下駄箱やロッカーは500人分用意した」と話す。休職所に和室を設けるなど工夫をこらし、新卒から高齢者まで「一緒に長く勤めてもらいたい」という環境づくりを進める。

スマホが使えない人が9割以上
防災意識調査

集合場所を決めていると答えた人に、実際に家族と集合する際の不安について聞いたところ、「一回線や電波の不具合などにより、決まっていた連絡手段が利用できない」という

「サイクリングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。」

また通信されるデータを暗号化(SSL通信)しハッキングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。

クラウド向けシステム

集、安否確認として

千葉県内の公立病院の導入事例

規則上業務での利用が制限されているため採用できない状況だった。

そこで導入したのが同システムだ。職員は専用のQRコードから緊急連絡先となる電子メールアドレスを登録する。防災担当者には必要時に専用の管理画面から回答フォーム付きのメールを送信し、職員の開封状況や回答の内容を確認、集計することが可能。登録者グループ分けして特定のグループだけにメールを送ることもできるほか、日時を指定した自動送信や定型文の登録、防災マニュアル等の掲載機能も

発生する中、安否確認だけでなく被災の有無や具体的な被災状況を収集できたことで、出勤可能な職員数に対応した診療継続体制を構築することに成功。回答の集計結果をCSVのファイル形式で出力する機能も検討資料の迅速な取りまとめに役立った。

また、停電や浸水にみまわれた病院の被災状況や周辺道路の冠水状況や降雪などの気象情報、路面凍結などの道路交通情報を中心、病院の近隣市町村から自家用車で通勤する職員が多いことを

同院の防災担当者は「携帯電話からスマホへの移行時も操作感が変わっていない」と話した。

同院の防災担当者は「システムは行政から継続的に発信される情報を都度職員に共有する際にも適している」と話した。

同院の防災担当者は「システムは行政から継続的に発信される情報を都度職員に共有する際にも適している」と話した。

システムは行政から継続的に発信される情報を都度職員に共有する際にも適している」と話した。

規則上業務での利用が制限されているため採用できない状況だった。

そこで導入したのが同システムだ。職員は専用のQRコードから緊急連絡先となる電子メールアドレスを登録する。防災担当者には必要時に専用の管理画面から回答フォーム付きのメールを送信し、職員の開封状況や回答の内容を確認、集計することが可能。登録者グループ分けして特定のグループだけにメールを送ることもできるほか、日時を指定した自動送信や定型文の登録、防災マニュアル等の掲載機能も

発生する中、安否確認だけでなく被災の有無や具体的な被災状況を収集できたことで、出勤可能な職員数に対応した診療継続体制を構築することに成功。回答の集計結果をCSVのファイル形式で出力する機能も検討資料の迅速な取りまとめに役立った。

また、停電や浸水にみまわれた病院の被災状況や周辺道路の冠水状況や降雪などの気象情報、路面凍結などの道路交通情報を中心、病院の近隣市町村から自家用車で通勤する職員が多いことを

同院の防災担当者は「携帯電話からスマホへの移行時も操作感が変わっていない」と話した。

同院の防災担当者は「システムは行政から継続的に発信される情報を都度職員に共有する際にも適している」と話した。

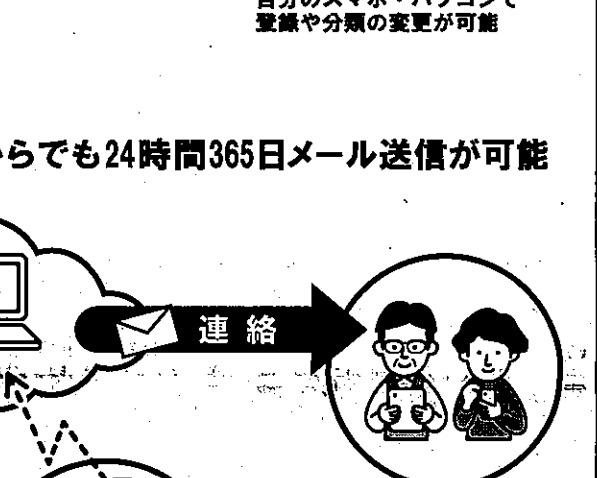
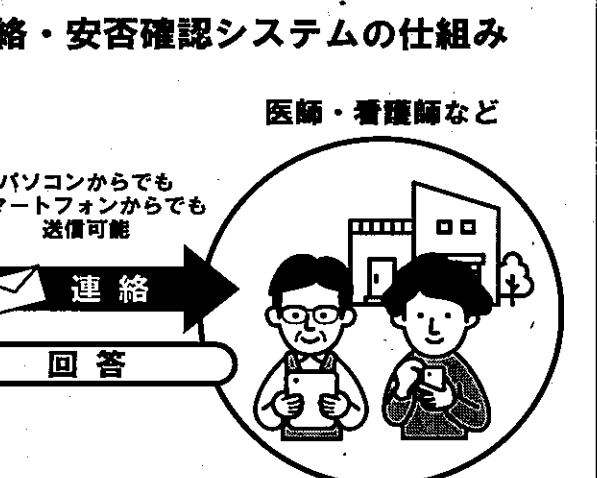
同院の防災担当者は「システムは行政から継続的に発信される情報を都度職員に共有する際にも適している」と話した。

システムは行政から継続的に発信される情報を都度職員に共有する際にも適している」と話した。

災害時の連絡・安否確認システムを提案
平時は防犯や気象情報などを発信

コアシステムズ

ソフトウェア開発を手掛けるコアシステムズ(広島県福山市、都築邦昭社長)は、病院スタッフ向け連絡・安否確認システム「ラインネット」ホスティング「エシジョン」の提案を強化している。同システムはスマートフォンなど携帯端末の電子メール機能を活用して職員への連絡や災害時の安否確認を効率的に行うもので、導入してから10年目に入る千葉県内の公立病院では、平時は防犯や気象などの情報を提供し、災害時には職員の緊急集合や安否確認などに役立っている。同院の防災担当者は「無駄のない機能で連絡の発信側、受信側のどちらからも使いやすい。情報保護規定でSNSが業務利用できないような病院には最適だ」と評価している。導入の経緯や使用感などを聞いた。



クラウドの活用で、院外からでも24時間365日メール送信が可能

自宅から 外出先から

医師・看護士など

サイクリングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。

サイクリングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。

サイクリングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。

サイクリングやデータの改ざんに対しても万全の体制を敷いている。さらに不測の事態に備えて個人情報漏洩保険にも加入済だ。